

非人道的な社員への扱いを許さない！！

2009年11月28日 東京仕業検査車両所（第一仕業）において、C27編成11号車No.8軸箱磁気栓からの油漏れが発見され給油処置を行ったという事象がありました。このC27編成は11月20日に交検が施行されており、その際に当該号車の軸箱磁気栓の特交検作業が行われていたことから、会社は検査担当者に対して12月1日に事情聴取を行いました。

その中で検査担当者の一人である組合員に対して、理由を言わずに時系列等報告書を求めたり、作業状況を再現させ写真撮影やビデオカメラで撮影するなど、まさに犯罪者に対する実況見分を思わせる扱いをしたのであります。会社は「顔は写さないから」として本人に作業手順を実演させその様子をビデオ撮影しました。しかし、そのことにとどまることなく、実は事前にこっそりと台車のNo.8軸箱の磁気栓を緩めた状態にしておいて、本人が検査をして気がつくかどうかを試すという卑劣な行為を行ったことが発覚した。本人は「緩んでいる」ことに気づき立ち会っていた企画科長に対し、「これ緩くないですか」と聞いたところ、企画科長は「トルクを緩めている」と答えたのです。本人は「このような事をするのはおかしい」と抗議を行いました。

このような犯罪者扱いに対し、労働組合として断固抗議する！

会社が、他の作業担当者に対しては前々日にすでに電話で状況について伝えていることも明らかになりました。このことにより当該組合員に対して、意図的に不当な差別扱いを行ったのであります。

そして、当該社員にあらかじめ今回の事象の全責任を負わせようとする恣意的な証拠集めの為の「時系列報告書や調査」でしかなく、まさに「犯人扱い」とした卑劣極まりない不当なものであり、人権を侵害するものであったのです。

私たちJR東海労新幹線地本としてもこの問題を直ちに会社に申し入れを行い、当該社員に対し謝罪をすることを申し入れてきました。

以前、旧東京第二車両所では、事故の事象もないのに仕業検査の標準化の確認と称し、元大山所長がBCコックを反位にして社員を試す行為がありました。このことに対しても私たちは、断固抗議を行い会社に申し入れを行ってきました。私たちはこのような人権を侵害する行為は絶対認めない闘いを職場から進めていきます。